第１回　平塚市総合計画審議会

議 事 録

日　時　平成２７年８月６日（木）　１４時００分～１６時１０分
場　所　平塚市中央公民館３階　大会議室
出席者　１９名
小中山委員（会長）、照屋委員（副会長）、秋山委員、石崎委員、内海委員、久保田委員、栗原委員、佐藤委員、城田委員、鈴木委員、須藤委員、田城委員、西澤委員、二宮委員、水嶋委員、宮﨑委員、森委員、山原委員、米村委員
事務局　８名
傍聴者　２名

［議事］
■次期総合計画の策定趣旨について
■計画策定に際し、踏まえるべき事項について
■次期総合計画の施策について
■次期総合計画の重点施策について

【事務局】（上記４点について資料に基づき説明した）
【会長】事務局から資料の説明があった。今回は一回目の審議会になるので、委員一人一人から、それぞれの立場での考えを伺えればと思う。
【委員】事務局から資料の説明があり、事前にも目を通したが、とにかく多岐にわたる計画である。各論を申し上げることはできないが、私が所属する平自連の立場では、住民の目線に立った意見を必要に応じて具体的に出していきたいと考えている。
【委員】私は商工会議所から選出されている。その立場からは、産業の振興という視点で意見を申し上げたいと思っている。一方で、私は平塚信用金庫の理事長も務めている。信用金庫とは、まさしくエリア産業で、地域と運命共同体という側面がある。計画の策定には非常に興味を持っている。今後は色々な感覚の中で意見を申し上げていきたい。
【委員】私は市民委員で、青少年活動など子供に携わる仕事をしている。先ほど説明のあった、「平塚市総合計画市民ワークショップ」における中学生の意見はとても率直な意見であったと思う。子供達の将来を思うと、公共施設の維持費に係る市民一人当たりの負担額については、これから色々と考えなくてはいけないと思う。審議会では、このような観点から意見を申し上げたいと思う。
【委員】今日の資料を見ると膨大な量で、これから審議していくのは大変なことだろうなと思う。私は医師の立場から出席しており、まず医師会の取組みをご紹介したい。医師会では色々な事業を行っているが、ここ３年間は、２０２５年問題や高齢化率が２５％を超えていること

を踏まえて、３つの重点課題を挙げている。一点目は、在宅医療の充実ということで、人材育成と在宅医療の拠点づくりを市と協力しながら行っている。二点目は、病院と診療所の連携強化。これにより医療の効率化を目指している。三点目は、休日診療所の１次救急の充実。今までは内科、小児科だけだったが、平日や夜間でも外科が入ることで、休日診療所で医療ができるという体制を整えている。また、それらと合わせて災害時拠点医療に取り組んでいる。これからも行政と協力しながらやっていきたい。この審議会では医師の立場で、審議に協力していきたい。

【委員】私は市民委員で参加している。元々は都市銀行に２０年勤めていたが、早期退職し、現在はファイナンシャルプランナーをしている。その観点から申し上げると、「神奈川県の中での平塚」を見ると、人口で言えば、県民全体の２．９％しかいない。殆どが横浜、川崎、相模原に集中している。資料では、平塚市の数値が全国平均、県平均と比較されているが、可能であれば、「湘南地域５市３町の中での平塚」を見てもらいたい。そうすることで、一般の平塚市民の視野に入ってくるのかなと思う。５市３町で比較することにより、製造業や農業の平塚の特色が鮮明になるのではないかと思う。また、人口減少による影響が、自分の生活にどう関わってくるのか考えている市民は多くないと思う。小中学校の統廃合があるとか、公民館がなくなるとか、人口減少による諸問題を示せれば市民の意識が高まり、議論が深まるのではないかと考える。

【委員】今回の平塚市の総合計画の特徴は、総合戦略を包含するということにある。非常に苦労されているところであると思うが、神奈川県においても急ピッチで人口ビジョンと総合戦略の策定に向けての作業を進めているところである。県の人口ビジョン及び総合戦略について、具体の中身を示すことができる段階になった際には、内容について整合性を取っていただきたい。特に、この地域ではさがみロボット産業特区とシープロジェクトを全国に発信していきたいと考えており、このことについては、連動・整合について是非配慮していただきたい。

【委員】平塚青年会議所では、地域の成年経済人として、まちづくりをしてきた。市民意識を変えるには「選択と集中」が必要だと考えている。今日の資料の冒頭にも「選択と集中」があることから、その考えに賛同している。青年会議所の活動を紹介させていただくと、これから５年間のビジョンで七夕まつりを、年間を通じて育まれる文化として、地域をつなぐ鍵にできないかと考えている。もう一つが、プチ平塚という事業を１０年来行っており、公民館、自治会、学区など小さな地区単位で進めてきており、その地域力・地区力を高めていきたいと思っている。小さな地区単位でみてみると、平塚は潜在的に地域力が高いところがたくさんあると感じる。総合計画は、内容が多岐にわたっているが、何かに特化した計画や取組みにすることも市民の関心を高めることにつながるのではないかと考えている。

【委員】これまでも話があったが、今回の総合計画は国の示した総合戦略を踏まえることになっており、地方自治体が生き残れるのか、また自立できるのかというターニングポイントになると思っており、この４年間が一番大事であると思う。資料では、合計特殊出生率１．８を目指すということが示されていたが、よほどの覚悟を持たないと達成はできない。施策自体が前例踏襲ではなく、平塚ならではの政策展開ができればと考えている。

【委員】総合計画策定にあたり大切なこととして、圏央道の開通や国道１３４号の４車線化が挙げられる。これは平塚市にとってチャンスの時期であると言える。これから人口が減少する中、

財政的にはどんどん厳しくなっていくが、この街が生き残るためには、市内の人だけではなく、市外の人にどのようにこの街の良さを発信していけるかが非常に重要になってくると思う。様々な計画は全て大事かも知れないが、特に必要な施策に対してお金をかけて、この街はこんなにも良いものがあるということを他市に先駆けて進める必要があると思う。

【委員】教育委員として出席している。本業の他にも、一般社団法人サロン・ド・ワインという神奈川大学の先生を中心に月１回リーダーシップについての勉強会と年２回シンポジウムを開催している。一般市民を対象に少しでもお役に立てればという趣旨で活動している。教育委員会では、教育振興基本計画、通称『奏プラン』で、細かな事業計画を定めていることを報告する。

【委員】西湘地域連合から選出され、出席している。西湘地域連合は連合の地域組織で、平塚・伊勢原・大磯・二宮にある組合で組織している。労働者の視点に立って、意見を出していきたい。平塚については、人口のピークの平成２２年以降、日産車体や横浜ゴム等の工場が縮小してきた。重点施策に位置付けられている、「しごとづくり、産業の活性化」に着目していきたい。

【委員】平塚市将来都市構造図の中において、緑色の部分が２か所あると思うが、これらは市の半分が農地や山林であることを意味しており、この中に位置する城島地区と吉沢地区には市街化区域が存在せず、農家の生活は非常に厳しい状況にある。以前、城島地区において地目変更をして、ソーラーパネルを設置して副収入を得たいとの意見があったが、条例により実現できなかった経緯がある。また、吉沢地区においては、山林が殆どだが、開発が出来ない状況になってしまった。緑は市民のために非常に尊いものだが、その一方で、農家としては生活する上で喜ばしいことばかりではない。近年は、小学校や公民館の周りにまで猪、猿、鹿が頻繁に出現している状況である。また、日向岡のトンネルから東名高速道路の秦野中井インターまで道路がつながる予定があったが、凍結になってしまった。農家にしてみれば、道路整備に伴い、土地改良で畑を大きくしてもらい、少しでも農業をしやすくしてもらいたいという意見もある。酪農は厳しい状況に陥っており、やめた人が多数いる。高齢者が農地を管理できないということで飼料を作っていたが、ここで畑として農地に戻され、また高齢者が管理することになったが、草刈りや畑を維持するなどは高齢者にとっては非常に難しく、農業委員会にやってもらう訳にもいかない。そのため、緑を保全するだけではなく、開発しながら保全することを考えて欲しい。農家の年齢層については、６０～８０歳の人が中心となっており、総合計画の４年や８年の期間になると、我々は動くことが出来ない。後継者は数えるほどしかいないのが現状である。そのため、地域に応じた計画を策定して欲しい。

【委員】この審議会に興味があり、参加させていただいた。総合戦略に関心があり、国の資料を調べてきた。事務局から策定趣旨の説明があったが、総合戦略と総合計画を一体的に策定することに違和感を覚える。国の資料では総合戦略を総合計画とは別に策定するよう記載されている。しかし、一緒に策定してもよいように記載されているところもある。総合戦略の大きな特徴は、従来、行政が位置付けていたアウトプットという指標が、これからはアウトカムという住民の利便性・便益性というものにしなければならないという点である。総合計画に位置付けたものすべてにアウトカムを付けるとなると、非常に膨大な作業となる。総合戦略的な役割と、従来やっていた総合計画的な展望とを区分けするのか、混ぜてしまうのかを明

確にしないと、議論が右左にぶれてしまうと思う。また、次回審議会まで間隔が空いており、その間、事務局を中心に案を練ることになると思うが、委員としてはそれまで何をすればよいのかと思ってしまう。私としては、この計画に対して寄与したいと考えているが、この審議会が、ともすると、ただの追認機関になってしまうのではということを心配している。この間、もう少し事務局と密接なやりとりができるシステムを作ってほしいと思う。

【委員】私は農業団体代表ということで出席しているので、その視点から意見を申し上げていきたい。資料の農業分野の部分を見させていただくと、地産地消と生産基盤の強化が入っている。地産地消については、平塚市は神奈川県下でも米どころということで、県の学校給食会に米の地産地消を働きかけているが、なかなか理解が得られない。そのような点で地産地消に力を入れていきたい。一方、荒廃地の問題がある。湘南地域農業再生協議会という団体があり、その中で、農地集積・担い手確保に力を入れていきたいと考えている。そうすることで、産業の効率化やコストの削減が期待できる。そのような観点での意見を反映できればと考えている。

【委員】総合計画は非常に多岐に渡るものであると感じた。神奈川県は特区を設定し、神奈川県自身から援助を回していこうとしている。平塚は高いポテンシャルを有していると思う。圏央道が開通し、国道１３４号が４車線化したことは、平塚にとって大きなことであり、これを活かす必要がある。街も道も繋がっているものであるため、近隣の市町と協力体制を築く必要があり、その一方で他市には負けない平塚市の特徴を明確に示さなければいけないと思う。また、県議会議員としての携わりの中で、教育に対して真剣に捉えており、市内の中原で児童相談所の開設に漕ぎ着けることが出来た。これは政令市の変更で、県の役割が変わったことにより可能になった。今までは平塚市民でも藤沢の児童相談所まで行かなくてはならなかったことから、これは大きな進歩であったと思う。平塚市が神奈川県の中で、どのような位置づけなのか、またどのような特徴を見出すことが出来るかなどについて、この総合計画審議会の中で話し合っていければと思う。

【委員】人口減少、少子高齢化の進展という日本全体が抱えている問題に、平塚市がどのように対応するのか、そのメッセージを計画に盛り込めたらと考えている。一つキーワードとなるのが、湘南エリア内の近隣市町が連携し、メッセージを発していくということがあると思う。また、他の委員からさがみ縦貫道路や国道１３４号などの道路網の整備の話があったが、一方で、平塚市は人口２６万人の都市で鉄道駅が１つしかなく、日本一鉄道駅に不便なまちということが言える。その状態で、住みやすい街といって、住んでいただいている。しかし、これから先はそうでなくなるかもしれない。例えば、今後小田急線沿いのエリアと一緒の経済圏として見れば、鉄道駅は沢山ある。平塚市だけのプランが先行しても上手く乗り越えられないこともある。平塚市に足りないものは、広域で連携をしながら産業の誘致や人口の流れを導くことが必要である。

【委員】３０年後、４０年後に平塚に住んでいる人が、どういう状況になっているかを見据えて、今回の計画を立てなければいけないと思う。３０年後、４０年後の厳しい状況が変わっているような計画にできるよう、意見を出していきたいと考えている。また、県議会議員として、神奈川県のグランドデザインと市の計画との整合性を図っていきたい。弱い人達の立場に立ち、子ども達への教育、男女共同参画、高齢者・障がい者福祉などについて、審議会で意見

を申し上げたい。

【副会長】総合計画の総合性というのは、現在ここに暮らしている市民の幸福と繁栄を考えて実施する施策を決めるものである。現総合計画において１０年間の総括された指標があり、非常に苦しい地域経済状況の中にあったとはいえ、基本目標４の「活力とにぎわいに満ちたまち」については、単純平均値ではあるものの、６４％の達成率であった訳である。今後はなぜこのような数値となったかを分析した上で、向こう８年間の計画を進める必要がある。次期総合計画の体系図については４つの施策の大綱があるが、その中で４つ目の産業の部分については、現計画の達成状況を踏まえたうえで、どのような施策にするのかを知恵を加えて検討し、総合計画を策定する必要がある。

【会長】１０年ほど前になるが、少子化から懸念される将来の大学運営について議論がされ、生き残りの戦略を考えなくてはという時期があった。その時、大学の都心回帰という流れがあったが、東海大学は湘南キャンパスを中心としていくことを決めた。教員の中には、立地の視点から競争劣位になるという人もいた。競争劣位をどのように競争優位に変えていくか。そのために、戦略的にどのように考えていくかという時期があった。西神奈川の知の拠点として地域へ貢献する。さらに、本学は理工系学生が半数を超えるという特徴を持っているので、このようなことを利用した産業基盤の構築への貢献や地場で雇用環境を作れるということを西神奈川全体で考えていけば、立地劣位から優位に変えていけるのではないかという話があった。今回のことで言えば、大学という資源の活かし方を総合計画の中に何らかの形で盛り込めればと考えている。また、先程の意見であるが、１０月に予定されている２回目の審議会までに委員の意見や質問はどのような形で反映させていただけるのか。

【事務局】メールなどで意見をいただくことを考えている。

【委員】形式は何でも構わないが、ただの追認組織にならなければよい。

【委員】法律的には、この審議会は諮問機関ということでよいのか。

【事務局】諮問機関になる。最終的には素案を示し、その素案に対して意見をいただきたい。ただ、それまでの過程においても、何らかの意見のキャッチボールが必要かと思っている。

【会長】１０月に示される資料というのは、資料３、４をもう少し具体的にしたものになると想定してよいか。

【事務局】施策の体系などが中心になってくると思われる。

【副会長】７割８割の完成度でもよいので、１０月に提示される案について、非公式のワークショップなどを開いて検討したらどうか。

【会長】全員出席でなく、参加できる人のみでも。一つの案としていかがか。

【事務局】そのような形で進めたい。

【会長】次回まで時間があり、折角審議会のメンバーになった我々の意見も取り入れるということで是非お願いしたい。

【事務局】では、詳細は後日詰めさせていただく。

以　上